

日本銀行と金融政策



(i) 中央銀行の役割

世界各国は、国全体の立場から金融活動を行う代表的な銀行として、政府から独立した**中央銀行**をもっている。日本の中央銀行は日本銀行であり、物価安定や金融システムの安定を主な任務としている。

- ① ^[1]) : 銀行券(紙幣)を発行できる唯一の銀行
- ② ^[2]) : 市中銀行に対して、国債や手形の売買をおこなったり、預金準備金の受け入れなどをおこなったりする。
- ③ ^[3]) : 国のお金の管理や出し入れ、政府の代理として為替市場への介入などを担う

(ii) 金融政策

■ **金融政策** 中央銀行 が _____ を通して、景気や物価の安定をはかる政策

- ・不況時⇒通貨量を増やし、景気を上向かせる(金融緩和)
- ・好況時⇒通貨量を減らし、景気の過熱を抑える(金融引き締め)

*方法Ⅰ ^[4]) : 国債や手形の売買を通して市中銀行に影響を与える

例 【不況時の場合】→ 通貨量を増やしたい。

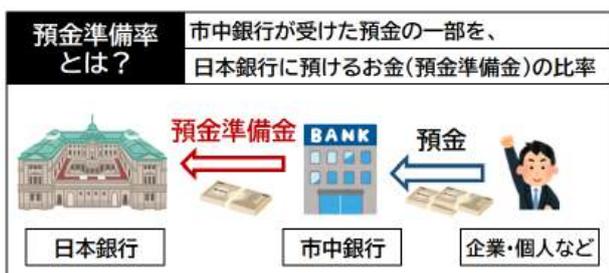


- ①日本銀行が国債や手形を市中銀行から買い取る
=[]
- ②市中銀行は資金が増え、お金が貸しやすくなる
- ③企業や家計など社会全体の通貨量が増加する

※この公開市場操作が、現在の日本において中心的な金融政策である。好況時には真逆の方法をとればよい。

*方法Ⅱ ^[5]) : 市中銀行が日銀へ預ける預金準備率を操作し、資金量に影響を与える方法

例 【不況時の場合】→ 通貨量を増やしたい。



- ①日本銀行が預金準備率を〔 〕
- ②市中銀行は従来に比べて日銀に預ける資金が減る
- ③資金量が安定することで、お金を貸しやすくなる
- ④企業や家計など社会全体の通貨量が増加する

※この預金準備率は、1991年以降変更されておらず、現在の日本では金融政策として実施していない。

(iii) 金融の自由化

〔 従来 〕 政府がさまざまな規制で自由競争を制限し、金融機関を保護 = 〔⁶〕

その結果... どの銀行も差が無く、競争力は低下

1980年代 金融の〔⁷〕・〔⁸〕が進み、国際競争が激しくなる

1990年代 バブル崩壊の影響で、巨額の〔⁹〕に苦しむ銀行も出現。



国際競争力のある銀行が求められるようになる

1990年代後半～ 〔¹⁰〕 構想：〔¹¹〕 内閣

①金利や外国為替取引の自由化

②銀行・証券・保険の相互参入が一部可能

③独占禁止法改正により、金融機関の持株会社が解禁 ⇒ **自由化・国際化が進む**

・大手銀行が合併を繰り返し、三大メガバンクを中心に再編が進む。

・新規参入の銀行が増加。 (例)セブン銀行、楽天銀行など

Q,三大メガバンクってどこ？

cf. 〔¹²〕 … 金融機関が破綻した場合、国が1人につき _____ 円と
その利息を上限とする預金の払い戻しを保証する制度

cf. 〔¹³〕 … バーゼル合意に基づき、国際業務を行う銀行には **8%***以上の自己資本比率を
守るよう求めた規制。自己資本比率が高い程、財務的安定度が高いといえる。
(※2019年から上乗せされて10.5%以上に変更されている)

(iv) 非伝統的金融政策

1990年代以降、バブル崩壊後に最悪の経済状況となる中で、これまでとは異なる大胆な方法でデフレ脱却を図った。これらの金融政策を総称して**非伝統的金融政策**という。

① 〔¹³〕 (99~00,01~06,10~13)
無担保コールレートをゼロに近づけることでお金の回りを活性化し、社会全体の通貨量を上げていくねらいで実施。



② 〔¹⁴〕 (01~06)
操作目標を金利に置くのではなく、通貨量の増加に切り替え
⇒日銀に潤沢な資金があれば、資金に余裕をもたせられる
⇒社会全体へ資金を大量に供給し、デフレ脱却を目指す



③ 〔¹⁵〕 (2013~)
異次元の金融緩和と巨額の買いオペレーションにより、通貨量の増加を目指した政策



④ 〔¹⁶〕 (2016~)
市中銀行から日銀へ預金することが損になる状況を作り、企業へ貸し出すよう誘導する



日本銀行と金融政策



(i) 中央銀行の役割

世界各国は、国全体の立場から金融活動を行う代表的な銀行として、政府から独立した**中央銀行**をもっている。日本の中央銀行は日本銀行であり、物価安定や金融システムの安定を主な任務としている。

- ① ^[1] **発券銀行** : 銀行券（紙幣）を発行できる唯一の銀行
- ② ^[2] **銀行の銀行** : 市中銀行に対して、国債や手形の売買をおこなったり、預金準備金の受け入れなどをおこなったりする。
- ③ ^[3] **政府の銀行** : 国のお金の管理や出し入れ、政府の代理として為替市場への介入などを担う

(ii) 金融政策

■ **金融政策** 中央銀行 が **通貨量の調整** を通して、景気や物価の安定をはかる政策

- ・ 不況時 → 通貨量を増やし、景気を上向させる(金融緩和)
- ・ 好況時 → 通貨量を減らし、景気の過熱を抑える(金融引き締め)

* 方法Ⅰ ^[4] **公開市場操作** : 国債や手形の売買を通して市中銀行に影響を与える

例 【不況時の場合】 → 通貨量を増やしたい。

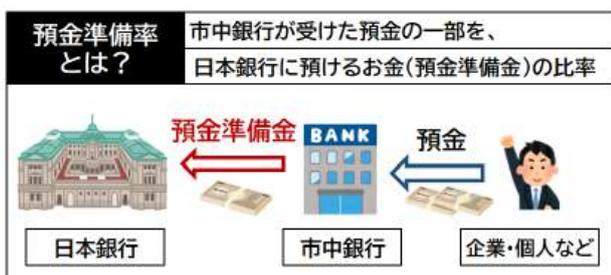


- ① 日本銀行が 国債や手形を市中銀行から買い取る
= [**買いオペレーション**]
- ② 市中銀行は資金が増え、お金が貸しやすくなる
- ③ 企業や家計など社会全体の通貨量が増加する

※この公開市場操作が、現在の日本において中心的な金融政策である。好況時には真逆の方法をとればよい。

* 方法Ⅱ ^[5] **預金準備率操作** : 市中銀行が日銀へ預ける預金準備率を操作し、資金量に影響を与える方法

例 【不況時の場合】 → 通貨量を増やしたい。



- ① 日本銀行が 預金準備率 を [**下げる**]
- ② 市中銀行は従来に比べて日銀に預ける資金が減る
- ③ 資金量が安定することで、お金を貸しやすくなる
- ④ 企業や家計など社会全体の通貨量が増加する

※この預金準備率は、1991年以降変更されておらず、現在の日本では金融政策として実施していない。

(iii) 金融の自由化

〔 従来 〕 政府がさまざまな規制で自由競争を制限し、金融機関を保護 = 〔⁶ **護送船団方式** 〕

その結果… どの銀行も差が無く、競争力は低下

1980年代 金融の〔⁷ **自由化** 〕・〔⁸ **国際化** 〕が進み、国際競争が激しくなる

1990年代 バブル崩壊の影響で、巨額の〔⁹ **不良債権** 〕に苦しむ銀行も出現。



国際競争力のある銀行が求められるようになる

1990年代後半～ 〔¹⁰ **日本版金融ビッグバン** 〕 構想：〔¹¹ **橋本龍太郎** 〕 内閣

①金利や外国為替取引の自由化

②銀行・証券・保険の相互参入が一部可能

③独占禁止法改正により、金融機関の持株会社が解禁 ⇒ **自由化・国際化が進む**

・大手銀行が合併を繰り返し、三大メガバンクを中心に再編が進む。

・新規参入の銀行が増加。 (例)セブン銀行、楽天銀行など

Q,三大メガバンクってどこ？

三菱 UFJ・みずほ・三井住友

cf. 〔¹² **パイオフ制度** 〕 … 金融機関が破綻した場合、国が1人につき **1000万** 円と

その利息を上限とする預金の払い戻しを保証する制度

cf. 〔¹³ **BIS 規制** 〕 … バーゼル合意に基づき、国際業務を行う銀行には **8%***以上の自己資本比率を

守るよう求めた規制。自己資本比率が高い程、財務的安定度が高いといえる。

(※2019年から上乗せされて10.5%以上に変更されている)

(iv) 非伝統的金融政策

1990年代以降、バブル崩壊後に最悪の経済状況となる中で、これまでとは異なる大胆な方法でデフレ脱却を図った。これらの金融政策を総称して**非伝統的金融政策**という。

① 〔¹³ **ゼロ金利政策** 〕 (99~00,01~06,10~13)

無担保コールレートをゼロに近づけることでお金の回りを活性化し、社会全体の通貨量を上げていくねらいで実施。



② 〔¹⁴ **量的緩和政策** 〕 (01~06)

操作目標を金利に置くのではなく、通貨量の増加に切り替え
⇒日銀に潤沢な資金があれば、資金に余裕をもたせられる
⇒社会全体へ資金を大量に供給し、デフレ脱却を目指す



③ 〔¹⁵ **量的・質的緩和政策** 〕 (2013~)

異次元の金融緩和と巨額の買いオペレーションにより、通貨量の増加を目指した政策



④ 〔¹⁶ **マイナス金利政策** 〕 (2016~)

市中銀行から日銀へ預金することが損になる状況を作り、企業へ貸し出すよう誘導する

